



なかま

立山町立釜ヶ淵小学校
第1学年 学年だより
R2. 9. 11

始業式から2週間。子供たちは生活のリズムを取り戻しつつあります。例年よりかなり短い夏休みでしたが、子供たちは一回りも二回りも大きくなってきました。

9月4日、運動集会のなかよし班競技「渕水の呼吸（ふちみずのこきゅう）」の練習が終わり、教室に戻った子供たちに「運動集会の目標『きずな』を深めようとは、どんな意味かな」と聞いてみました。1年生からは、「もっと班の人と仲良しになろうということかな。団で相談して作戦たてたりして」と返事が返ってきました。

上級生の後について、ただ言われることをこなしているだけかと心配していましたが、1年生なりに考えながら参加していることにたくましさを感じました。

○ 今は夏？それとも、秋？

生活科の時間に、次は学校の畑に行って虫を捕まえようと呼びかけたところ、子供たちが校庭で見付けた虫を次々に紹介し始めました。

「スキー山を歩いていたら、こおろぎがいた」とM君、「大休憩に、階段の踊り場で赤いトンボがいてぼくたちの周りを回っていった」とK君。「スキー山で見たのは、体が茶色いからイナゴだった」とFさん。「オニヤンマがグラウンドを飛んでいた」とHさん。だから、季節は秋になっているようだとは話は収まりかけていました。

ところが、「夏休みに家で飼っていたカブトムシは死んでしまった」のFさんの声に、Tさんが「まだ生きていますよ！」と話します。続いてO君は、「雌は卵を産むと力尽きてすぐに死んでしまったけれど、まだ雄は生きていますよ」と話しました。すかさずHさんが「雌は死んでしまったけれど、雄は山に帰っていく。家の庭で幼虫がいる所では、雌は卵を産んで、すぐ死んでいく」とたくさんのカブトムシを羽化させた経験を語り始めました。

その後、昆虫の話は、自分たちの生活に関する話に広がりました。「ぼくたちが着ているのは半袖と半ズボン。暑いからだよ」「家に帰ったら、すぐにアイス食べる」「ぼくも」「わたしも」たたみかけるように話が続きます。

えんえんと話が続き、「秋の物もたくさん出てきたけれど、今はまだ、ちょっと夏かな」と話がまとまりました。生き物と触れ合いながら季節の変化を実感し、自分の暮らしとつなげて捉えようとしている子供たちの感性の豊かさに驚きました。さらに友達の話の聞きながら自分の体験を思い起こし、もっと考えようとしている子供たちの関わりがすばらしいと思いました。

涼しい時間を見付けて、学校の畑で秋の虫を捕まえますので、来週、虫かごがあれば持たせてください。

夏休みにいろいろなことに挑戦しました！！

「今の自分にプラス1〇〇の夏大作戦！」や夏休みに作った作品の発表会をしました。

「自分がしたいこと」「自分の成長のためにしたらよいこと」を自分で決めて、粘り強く取り組んでありました。



Oさん かぶとむしのなつだいさくせん

かぶとむしがすきで、いえでかっているから、たまごをうんでくれるように、まいにちゼリーをあげました。

※熱が出て少しお父さんに任せてしまっただったそうです。



Kさん とけいのなつだいさくせん

とけいがよめなかったから、いつも「とけいプリント」をしました。〇ふんもちよつとよめるようになりました。あたらしいことに挑戦できました。



Hさん さんすうのなつだいさくせん

さんすうがにがてだから、すらすらとけいさんカードができるようにがんばりました。まいにち、プラス1ノートにもかいてれんしゅうしました。



Tさん うんどうのなつだいさくせん

プラス1とうんどうをがんばりました。なわとびやフラフープがいっぱいできるようになりました。はしるのは、いえのまわり8しゅう・フラフープ5ふんかん・あやとびは、40かいまいにちしました。

Mさん フラフープのなつだいさくせん

とくだから、もっとうまくなりたいとおもって、まいにちれんしゅうしました。800かいめざして、1にちもやまずにれんしゅうしました。



Fさん あさがおのなつだいさくせん

あさがおのさくところをみるために、まいあさ、6じ・5じ・4じはんとがんばっておきました。ちよつとねむかったけれど、がんばりました。



どのお子さんも夏休みにしかできない体験をして、生き生き発表していたのが、印象的でした。フラフープを毎日欠かさず練習して、回しながら、じゃんけんができるようになったMさん。今では、連続して600回以上できるようになったそうです。お姉さんが回した数を数えてくれてうれしかったそうです。おうちの方が、お盆休みを返上してお子さんの学習の協力をしてくださったことに、心から感謝いたします。この経験は、きっとどこかに生きてくると思います。

